

## 山梨県立あけぼの支援学校 第2回 学校運営協議会 協議結果について

日時：令和7年10月23日（木）

午後12時55分～午後3時15分

場所：山梨県立あけぼの支援学校 ほほえみホール他

### <次第>

- 1 開会の言葉
- 2 会長挨拶
- 3 学校長挨拶及びCSマイスター紹介
- 4 協議の進め方について（CSマイスター 横澤孝泰先生）
- 5 議事（議長：会長）
  - （1）令和7年度学校評価 中間評価について
  - （2）進路の状況について
  - （3）グループ別熟議
  - （4）全体熟議
- 6 報告
  - （1）第1回学校生活に関するアンケートについて
  - （2）その他
- 7 連絡
  - （1）第3回学校運営協議会学校について  
第3回 2月3日（火）
  - （2）その他
- 8 閉会の言葉

### ○協議の進め方について

（文部科学省総合教育政策局CSマイスター 横澤孝泰先生）

熟議とは子供を中心に据え、関係者が立場を超えて意見を出し合い、課題解決に向けて納得できる方向性を見出す対話の場である。「全員一致の合意」を目指すものではなく、「次の一歩」を見つけることが目的である。

<議事>

(1) 令和7年度学校評価 中間評価について

○学校より説明

(2) 進路の状況について

○学校より説明

(3) グループ別熟議

○熟議

- ・(1)(2)の報告を受け、①②グループは「危機管理：医療的ケアが必要な子供を災害時にどう守るかについて」③④グループは「進路：卒業後、地域で安心して活躍できる場をどのように広げるかについて」グループごとに熟議を行った。

○発表

① グループ（危機管理）

- ・人と物資、避難体制、自治体との連携などについて課題がある。
- ・最優先すべき課題として人と物資の確保が重要であり、酸素の必要量、保管場所、使用期限などの管理を早急に進める必要がある。

② グループ（危機管理）

- ・平時の備え、有事の避難や情報共有、保護者や自治体等との連携について課題がある。
- ・自治体の連携方法や災害時に情報を得る手段について、意見をもらうことができた。

③ グループ（進路）

- ・施設が少ないなど卒業後の資源に課題がある。
- ・保護者、行政などそれぞれの立場から課題を出し共有した。
- ・保護者のニーズを学校や行政がどれだけ把握しているかが重要であるという解決への糸口につながる意見がでた。

④ グループ（進路）

- ・送迎の困難や施設情報の不足などの課題がある。
- ・学校から進路先への情報発信が重要であり、現場実習を通じて生徒の多様なニーズを伝える必要がある。
- ・ニーズの「発信」と「収集」を行うことが必要である。

#### (4) 全体熟議

##### ○危機管理に関する共有

- ・学校で何を準備すべきかという今後取り組むべき点を共有
- ・酸素の確保など、医療的ケア児への対応が課題
- ・昼間、送迎中、夜間など、時間帯ごとの対応や体制の整備が必要
- ・夜間の生命維持に関して、連携先や課題の明確化が求められる

##### ○進路に関する共有

- ・施設の不足、選択肢の少なさが共通課題として認識された
- ・今できることとして「ニーズの発信・収集」が重要との共通理解
- ・PTA活動（施設見学・進路学習会）など保護者支援の取り組みについて紹介された

##### ○横澤先生より講評

- ・多くの活発な意見が出され、校訓「いきいきと」に通じる子供たちの命や卒業後の暮らしを支える願いが共有された。
- ・熟議は「学校の未来を一緒に考える」ための場である。小さな一步でも課題の達成に向けたプロセスが重要であり、継続的な取り組みがコミュニティスクール力になる。
- ・特別支援学校にこそ学校運営協議会が必要であり、子供の「学びの先にある地域での暮らし」を支えることが学校運営協議会の本質である。
- ・学校運営協議会は、地域が子供たちを理解し、支える仕組みを作るための出発点であり、委員一人一人の意志が未来を切り開いていく。

##### <報告>

- (1) 第1回学校生活に関するアンケートについて
- (2) その他→なし

##### <連絡>

- (1) 第3回学校運営協議会学校について  
2月3日(火) 午後2時～午後2時45分
- (2) その他→なし